

2020/11/27

(うとQ世話し コロナで「鞍替え」 あな、恥ずかしや)

何を常態(ノーマル)と捉えているか?

言い方を変えれば何を「自分のフツー」と考えているか?で危機への意識がだいぶ異なってくるようです(本件に付きましては以前記事にした事があるので、今回はその焼き直し版です)

「それは自分には起こりっこない」と思う人と

「なんだって自分にも起こりうる」と思う人で。

こうした意識の差は何によって生まれてくるのかと言えば、自分が観察したところでは

「自分は主役」意識の有無ではないかな?とっております。

「どんなに周りの端役が消えても、本編の主役である自分が消える(死ぬ)訳がない。なぜならそれでは本編(ストーリー)が成り立たないからだ」

と無意識にも思っている人と

「所詮筋書きなどありはしないのだから、本編(ストーリー)そのものが成り立っていない。主役も脇役もありはしない。だから自分にも何だって(死だって)起こりうる。真っ先に死ぬ可能性だってある」

そうして、思うに前者は裕福な家庭に育った子弟子女や現在高位を得ている人に多いような気がします。

自分は比較的裕福な家庭で育ちましたが、今コロナ禍の激変下で飲食業商売をする中、無意識とはいえ抱いていた「前者主役意識」から、意識的「後者ストーリーなどない意識」に鞍替えしつつあります。

いや、もう後者になっているので、お宝「玉兵衛」様を握り締めて日々恐怖におののいて居る次第でございます。

歳をとる程に肚など一向に座らず、情けなくも、落ち着きなく、益々オタオタ、オロオロの小心者になって行くのを痛感しております。

いい歳こいて

「あな、恥ずかしや」